

いて調べた方が興味深かったと思われる。

ところで、木田中心の農業経営方式に対しては従来いくらかでも経済的面の向上を計ろうとしているいろいろな努力がなされてきた。その主なものとして①稲の早期栽培 ②裏作物の転換 ③果樹や乳牛の導入、などがある。これらの問題についての検討を試みるには従来農業経営に複雑に作用していると考えられる様々な要素について考察してみる必要があるが資料蒐集の時間的余裕を欠き表面的な現状を知ること以上は何ら発展しなかったのは残念である。

Ⅳ おわりに

結論として最初の目的とした地形、土地利用の現状把握の限度について地形の一部しか見られなかったが特に土地利用についての調査不足を痛感させられる。

静岡県三島周辺の地形と土地利用

古 田 進 子

目 次

はじめに

- I 調査地域概説 §1 調査地域
- §2 主として自然的な環境について
- §3 主として人文的な環境について
- II 地 形 §1 地形分類
- III 土 地 利 用 §1 各地形面と土地利用との関係
- §2 土地利用の概況

この報告の目的は題目の示すように調査地域を主として地形と土地利用の面から考察するところにある。しかしこの地域において報告者が先ず興味を感じた事実は紡績を中心とする工業地域が農業の中に孤立的に存在する点であった。この報告では工業に対する説明は殆ど行われていず、工業立地の基礎を為す地下水と工業人口の面で農村の構造と関係のある点とについてそれぞれ若干の考察を行つてはすぎないが、工業に対する興味が出発点となつた為ら必ずしも地形的にまとめた単位とは看做すことのできない地域を調査地域範囲として設定することとなった。

調査地域は周知の如く伊豆半島の咽喉部を扼する地点にその位置を占め七西の愛鷹東の箱根西火山に挟まれた南北に狭い扇状地性の平野が中央に在り

ている。この扇状地性の平野は御殿場線裾野駅付近から始まって沼津市北方に至る黄瀬川と境川との合流扇状地であるが既に形成期を過ぎており、泉川境川などによって着しく侵蝕されつつある。また、この扇状地は北から南まで完全に一統さなのではなく、ほぼ東西に走る東海道線を境として大体その北側ではやや小起伏に富んでいるが、南側ではそれとは対照的に起伏らしいものは全く認められない。これは前者では三島熔岩流が地表近くに存在し扇状地礫層が熔岩流の表面形を完全に覆い隠すことができていない為とその影響が扇状地表面上の小起伏となって現われているという理由によるもので、熔岩の起伏の中でも高いものは扇状地の中に島状の熔岩丘として存在している。三島熔岩流はこのようにこの地域の地表の形態に影響を与えると共に、空隙に富んでいる為に良好な滞水層となり東海道線三島駅の東側から香賀山に向う北東—南西の方向にこの熔岩流内の地下水に起因する非常に湧水量の豊富な地下水露頭、所謂三島湧泉群が存在する。中でも泉川の湧泉群は本邦最大と言われ、一日平均約122万トンの湧水量があるが、これらの自然湧水は殆ど利用されずに放流されることが多い。三島周辺の豊富な地下水を立地条件としていると言われる紡績その他の工業は工業用木として湧泉の湧水を利用するのではなく各工場で熔岩の中の地下水を井戸によって採取している。

調査地域の地形は、既に述べた扇状地面の他に地表の形態や堆積物層などの異同に従い、火山山麓緩斜面、谷壁急斜面、谷底平野、旧河道、河岸段丘面、現河床に分類したが、これらの地形面と土地利用との間には比較的常識的な相関関係が認められる。即ち水田に不適当な傾斜地である火山山麓緩斜面には畑作地が谷底平野をはじめとする平坦部には水田が卓越し急斜面は林地となっている。扇状地面には水田があまり発達しないのが普通であるが、この地域では礫層が薄いこと、旧河道を利用した用水路に恵まれていることなどの理由からか、水田がよく発達している。またこの扇状地表面上の土地利用の半分近くの面積が都市村落及び道路などによって占められているが、これは周囲が山地及び海岸によって囲繞された東西交通のネックの重要な中心として発達してきた交通集落としての三島及びその周辺とこの交通的な意義と前に述べた地下水の存在とに原因する。工業地帯としての同地域の性格に由来するものにはかならない。ただし工業用地の占める面積はそれ程広くはなく、耕地面積の比率からみても農村色が濃い。工業地帯としての特色は、むしろ、工業従業者密度や、産業別構成人員などの面でよく示されている。